

# 応援の形態が野球選手の 感情に与える影響

岸ゼミ Bチーム

金城景亮 和仁屋樹 小村凌太郎

輪野伸悟 橋本篤 宮國成

はじめに

# 研究のきっかけ

スポーツを行う際に応援されると  
競技力は向上するのか



応援の規模や形態で選手の感情に  
どのような影響があるのか

選手を鼓舞するために行われる  
応援や声援は実際に選手の心理、  
競技パフォーマンスにどのような  
影響を与えるのかを検証。

# 川崎（2010）の調査

ソフトテニス選手を対象に重要な試合とそうでない試合での失点率は、応援があったほうが失点率は高く場合があった。



実際は選手のパフォーマンスを阻害しているのではないかと川崎は主張している。

# 釘原の調査(2013)

メジャーリーグ  
のホーム勝率

53.78%

日本プロ野球  
のホーム勝率

53.36%

ホームアドバンテージは日本でも米国でも勝率が5割を超えたことから、ホームアドバンテージの存在が明らかとなった。

# 小池（2017）の調査

選手が応援によって感情効果を受け、選手の性格で応援によってモチベーションに差があった。



選手の性格や試合状況を加味した応援をすることの必要性が示唆された。

# 運動通信社（2018）の報告

ハンドボール選手に活動計測デバイスを装着し、  
無観客の前半戦と、観客を入れ、応援や声援の  
ある後半戦を比較



後半戦は前半戦よりも運動量が20%もアップし、  
身体機能も向上したことが報告されている



応援のあるなしで運動量、身体機能が変化する



# 大越ら (2018) 調査

- 勝敗によるチームの応援の大きさの違い

結果



- 勝ちチームの応援は負けチームの応援より有意に大きい

# 本研究の目的と仮説

- ・ 野球の試合における応援の形態が選手のモチベーションや感情に与える影響を検討する。
- ・ 応援の形態で選手の感情に与える影響が異なると考える。

# 応援の形態

- ブラスバンド
- チアリーダーディング
- 応援団
- 学校を代表する応援歌やチャンステーマ

# 研究方法

# 対象者

- ・ 野球選手145名、15～24歳・平均年齢20.3歳(±6.0)
- を対象に年齢、ポジション、競技年数、自身の立場(レギュラーかそうでないか)大会の最高成績を把握
- 応援の形態をチアリーダーディング、ブラスバンド、応援団、無観客に分類

## Formsによるアンケート調査

LINEによるURLコード添付やQRコードを載せたアンケート用紙の配布などを行いデータの収集を行った。

応援に合わせて感情を快適度、緊張度、モチベーション、興奮度の4つの段階に分けてその効果を集計した。

# 対象者の内訳

## ポジション別(人)

- 投手 が約26%の37人
- 捕手 が約12%の17人
- 一塁手が約11%の16人
- 二塁手が約9%の13人
- 三塁手が約7%の11人
- 遊撃手が約10%の15人
- 左翼手が約13%の19人
- 中堅手が約7%の10人
- 右翼手が約5%の7人

## 競技年数

3年～16年

## 競技年数平均

11.9年 ± 2.3

## 競技レベル

全国大会経験者は42%の62人  
全国大会未経験者は54%の79人

# 場面想定法を使った調査

試合会場でチームメイトや観客から応援を受けている場面を想像してもらい、それぞれの応援形態について、快適度、緊張度、興奮度、モチベーション別に、「1、非常に下がる」～「7、非常に上がる」の中から1つ解答を求めた。

# 質問内容

- ①あなたがチャンスの打席でブラスバンドの大きな演奏が聞こえてくるとき、どのように感じるかを選んでください。
- ②あなたがチャンスの打席でたくさんのチアリーダーに応援されているときどのように感じるかを選んでください。
- ③あなたがチャンスの打席で大応援団に応援され大きな声援が聞こえるときどのように感じるかを選んでください。
- ④あなたがチャンスの打席で何も応援がない場合(無観客)どのように感じるかを選んでください。



# 結果と考察

表一1 4形態による感情得点の比較

因子	ブラスバンド	チアリーダーディング	応援団	無観客	F値
快適度	6.0(1.5)	6.0(1.3)	6.0(1.4)	3.7(1.7)	84.3**
緊張度	4.6(1.6)	4.9(1.5)	4.9(1.7)	3.9(1.6)	12.4**
興奮度	6.3(1.2)	6.0(1.3)	6.2(1.2)	3.7(1.7)	121.5**
モチベーション	6.3(1.2)	6.0(1.3)	6.2(1.2)	3.7(1.7)	121.5**

(\*\* P < 0.01) 18

# 考察①

- すべての因子において、1%水準の優位差が認められ、無観客が低いという結果になった。ほかの3つの応援形態に関してはどの感情得点においてもあまり差はみられなかった。

つまり

- どのような応援であっても、応援は選手に感情的にもやる気においても効果はみられる。

表-2 チーム内役割によるブラスバンド応援の比較

因子	レギュラー	準レギュラー	控え	F値
快適度	6.0(1.4)	5.8(1.6)	6.2(1.4)	1.0
緊張度	4.8(1.7)	4.6(1.5)	4.6(1.6)	1.9
モチベーション	6.4(1.1)	6.3(1.3)	6.3(1.3)	0.1
興奮度	6.3(1.0)	6.0(1.4)	6.0(1.4)	1.1

表-3 チーム内役割によるチアリーディング応援の比較

因子	レギュラー	準レギュラー	控え	F値
快適度	6.2(1.2)	5.7(1.6)	5.9(1.3)	1.2
緊張度	4.8(1.7)	5.3(1.2)	4.7(1.6)	1.9
モチベーション	6.5(0.9)	6.2(1.1)	6.1(1.3)	1.6
興奮度	6.3(0.9)	6.0(1.4)	6.0(1.4)	1.1

表-4 チーム内役割による応援団の応援の比較

因子	レギュラー	準レギュラー	控え	F値
快適度	6.3(1.2)	5.6(1.5)	5.9(1.5)	1.6
緊張度	5.2(1.7)	5.1(1.4)	4.6(1.7)	2.5*
モチベーション	6.3(1.1)	6.2(1.1)	5.8(1.5)	1.9
興奮度	6.3(1.1)	6.2(1.1)	5.9(1.4)	1.0

(\* P < 0.1)

表-5 チーム内役割による無観客応援の比較

因子	レギュラー	準レギュラー	控え	F値
快適度	3.8(1.8)	4.0(1.8)	3.4(1.7)	1.3
緊張度	3.9(1.6)	4.0(1.8)	3.8(1.6)	0.8
モチベーション	4.0(1.8)	3.9(1.7)	3.4(1.6)	0.1
興奮度	3.6(1.9)	3.8(1.7)	3.4(1.7)	1.0

## 考察②

- レギュラー、準レギュラー、控えというチーム内役割別の比較では、応援の形態にほとんど差はみられない。
- 応援の形態は選手たちにとって重要なものではなく、応援による声援や雰囲気は何よりも重要であると考えられる。



表-6 競技レベルによるブラスバンド応援の比較

因子	全国大会	全国以外	t 値
快適度	6.2 (1.3)	6.0 (1.6)	0.8
緊張度	4.6(1.7)	4.6 (1.6)	2.2
モチベーション	6.5 (1.0)	6.2 (1.4)	1.5
興奮度	6.2 (1.1)	6.2 (1.4)	0.1

表-7 競技レベルによるチアリーダーディング応援の比較

因子	全国大会	全国以外	t 値
快適度	6.1 (1.1)	5.8 (1.5)	2.0
緊張度	4.8 (1.5)	4.9 (1.6)	0.2
モチベーション	6.1 (1.2)	6.0 (1.4)	0.5
興奮度	6.2 (1.2)	6.0 (1.3)	0.7

表-8 競技レベルによる応援団応援の比較

因子	全国大会	全国以外	t 値
快適度	6.1 (1.3)	5.9 (1.5)	0.6
緊張度	4.6(1.7)	5.2 (1.6)	4.3*
モチベーション	6.4 (1.0)	6.1 (1.3)	1.7
興奮度	6.1 (1.2)	6.1 (1.3)	0.0

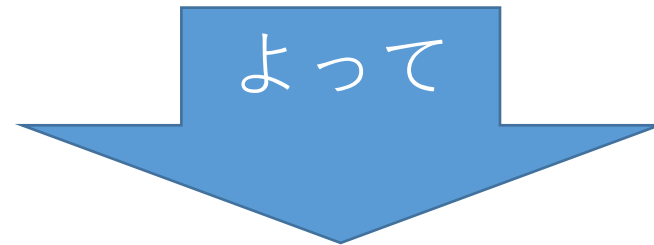
(\* P<0.1)<sup>27</sup>

表－9 競技レベルによる無観客応援の比較

因子	全国大会	全国以外	t 値
快適度	3.5 (1.7)	3.8 (1.8)	0.9
緊張度	4.0 (1.7)	3.8 (1.6)	0.3
モチベーション	3.6 (1.7)	3.8 (1.8)	0.4
興奮度	3.5 (1.8)	3.6 (1.8)	0.1

## 考察③

- 競技レベルの比較では、応援大の応援に緊張度で10%水準で有意差が認められ、競技レベルの低い選手が高い。



- 大会の規模が大きくても応援による感情への影響は変わらない。無観客以外は差は見られない。
- 競技レベルの低い選手の緊張度が高いのは、経験が浅いためと思われる。

# まとめ

- 形態に関わらず、応援で感情やモチベーションが高まる。
- 応援の形態が感情やモチベーションに与える影響差は少ない。
- 競技レベルの低い選手は、応援団からの応援で緊張度が高まる。
- 選手の競技レベルによって、応援が感情やモチベーションに影響する差はほとんど見られない。

- 応援によって緊張し、プレーに悪影響をもたらすという意見もあったが、緊張度よりも、快適度やモチベーション、興奮度への影響が大きいことから、応援があるほうが選手にプラスに働くと考えられる。
- 今回の研究で、明確な差が得られなかったのは、対象者の数が少ないことが考えられる。同時に、各応援形態の場面想定が十分にできていなかったと考える。今後は対象者を増やすことと音声や動画などを使い応援されている状況をイメージさせやすい設定を行う必要がある。

# 参考文献

- 大越ら(2018)高校・大学野球における応援の影響に関する機械学習を用いた評価  
([https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=repository\\_action\\_common\\_download&item\\_id=188559&item\\_no=1&attribute\\_id=1&file\\_no=1](https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=repository_action_common_download&item_id=188559&item_no=1&attribute_id=1&file_no=1))
- 小池輝(2017)陸上競技における応援が選手にもたらす心理的効果平成29年度順天堂大学学院スポーツ健康科学研究修士論文
- 情報通信社(2018)観客に応援されることで選手の運動量が約20%アップ!!  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000018536.html>」
- 釘原直樹(2013)「人はなぜ集団になると怠けるのか」中央公論新聞社22-38
- 川崎慎也(2010)「勝敗決定直後の認知上の失点率がパフォーマンスに及ぼす影響」大阪大学人間科学部卒業論文